

原電東海・東海第二発電所の現況を視察しました

2月4日、日本共産党茨城県委員会は、新しくなった県議団、地方議員など15名で、原電東海・東海第二発電所を訪れ、現況について視察を行いました。原電の丁寧な説明がありました。

実際に案内していただいた場所は、東海発電所関係では、低レベル放射性廃棄物L3の埋設計画予定地、クリアランスの国の確認待ちエリア（車窓から）、東海第二発電所関係では、緊急時資機材置き場（車窓から）、フィルタ付きベント装置設置予定地、原子炉建屋（燃料プール等）、タービン建屋、使用済み燃料乾式貯蔵建屋、発電所外周（防潮堤設置予定場所等）、取水ポンプエリア防護壁（6.1m壁）などでした。

原子炉建屋では、普段最上階の原子炉の真上に蓋がしてあるのですが(写真)、この日定期検査中ということで蓋が取られ、蓋のすぐ隣の位置にある燃料プールの位置まで水が張られていました。燃料を原子炉からプールに移すときは、水中で移動させるそうです。



視察を終えてから駐車場で、川崎議員とともに



丸い部分の真下が原子炉。視察日は定検中のためふたが取っており、すぐ隣のプールと同じ位置まで水が張ってありました。(写真は、原電HPから)

防潮堤やフィルタ付きベント装置の設置予定場所は、まだ何の変化もありませんでした。防潮堤の場所は、海水ポンプエリアのすぐそばの位置について確認。フィルタ付きベント設置場所は、原子炉建屋の外側からの確認で、排気塔のすぐそばの位置でした。

L3埋設予定地は、東海事務所やテラパークの北側方面に位置し、現在は更地になっています。東海発電所廃止により発生する廃棄物総量は約20万トン。L3は約12,300万トンです。日本共産党は、「埋設」ではなく「管理」の考え方にすべきと提案しています。



原電による埋設イメージ図

使用済み燃料乾式貯蔵建屋と乾式キャスクでは、「建屋はコンクリート壁で放射線を遮蔽、給排気口が設けられ、キャスクからの熱を自然冷却。耐震は、杭基礎構造を採用。キャスクの除熱では、ヘリウムガスを充填し、外筒と中間胴の間に伝熱フィンが設置されている。蓋部以外には開口部を設けず、蓋部は金属製の二重蓋を設置。遮蔽は、ステンレス、鉛、合成樹脂(レジン)。臨界防止策では、燃料の仕切り版に、ほう素を添加したアルミニウム合金製の中性子吸収剤を設置」との説明でした。キャスクは、建屋面積が狭くても数多くの保管が可能となる直立での保管方法です。燃料プールで約7年冷やされた使用済み燃料が乾式キャスクで冷却されます。

あれこれ

安倍政権の暴走をやめよの



国の暴走政治に合わせた形で、村が新年度、介護保険利用料への助成制度を廃止することなど、「役割後退をやめさせよう」と、街頭から村政報告しています。



名はミルク(♂)。生まれただけで拾われ我が家に来て11年。哺乳瓶でそだちました。鼻の頭の黒い模様はハンサムなのか

それとも? 最近は、ゆったり寝ていることが多い日々です。